

「エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ(GSEP)」による
ポーランドワークショップへの参加について
～ 国際連携を通じて地球規模でのエネルギー効率向上に貢献～

2013年10月24日
電気事業連合会

電気事業連合会は、本年10月14日から16日に開催された「エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ(GSEP) ¹」電力ワーキンググループ(WG)の第2回ワークショップ(開催国:ポーランド)に参加いたしました。

GSEPは、官民パートナーシップのもと、産業・建設分野における省エネルギー推進を目的に、APP ²の後継として2010年7月に設立された組織で、セクター別に6つのWGで構成されております。電力WGでは、石炭火力発電所における熱効率の維持向上に資する運転・保守技術の改善提案や、発電、送電、配電分野における優れた技術・ノウハウの共有等を通じて、地球規模での省エネルギー推進やCO₂排出量削減に貢献していくことを目指しております。

電気事業連合会は、訪問したベウハトゥフ火力発電所において、石炭火力発電所の運転管理や設備保守、環境装置等に関する知見を紹介するなど、専門的な観点から議論を主導しました。また、参加各国による地球温暖化問題や省エネルギーに対する取り組み状況等のプレゼンテーションや活発な意見交換が行われ、経験やノウハウ等の共有が図られました。

今回のワークショップにより、ポーランドの石炭火力発電所の運転・保守における豊富な経験やノウハウを参加各国で共有出来たことは大変有意義であり、加えて、総発電電力量の約9割を石炭火力発電が占める同国において、今後も適切な運転・保守管理技術が実施されることは、地球規模での省エネルギー推進やCO₂排出量削減の観点からも重要であると考えています。

なお、今回の活動については、クリーンエネルギー大臣会合 ³ (2014年5月開催予定;韓国)において結果が報告される予定です。

今後とも、本活動を通して、参加国と協力しながら、電力セクターにおける地球規模での省エネルギー推進やCO₂排出量削減に貢献してまいります。

以上

1 エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ

(Global Superior Energy Performance Partnership)

- ・日米共同提案により2010年7月に設立。日米の他にインド、カナダ、メキシコ、南アフリカ、欧州、韓国、オーストラリア、ロシアが参加を表明
- ・APP タスクフォースから移行された鉄鋼、電力、セメントのWGと、新たに作られた熱電供給、認証、都市・省エネの3つを合わせた6つのWGで構成
- ・電力WGには、日本（経済産業省・電気事業連合会）、米国、欧州、オーストラリア、中国、インドネシアが参加

2 クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ

(Asia-Pacific Partnership on Clean Development and Climate)

- ・アジア太平洋地域において、増大するエネルギー需要、エネルギー安全保障、気候変動問題などに対処することを目的として2006年1月に設立した官民の地域協力パートナーシップ
- ・日本、米国、豪州、中国、インド、韓国の6カ国が参加（2007年10月からカナダも正式参加）
- ・実質的な活動をGSEPの場に移すことで2011年4月に活動を終了

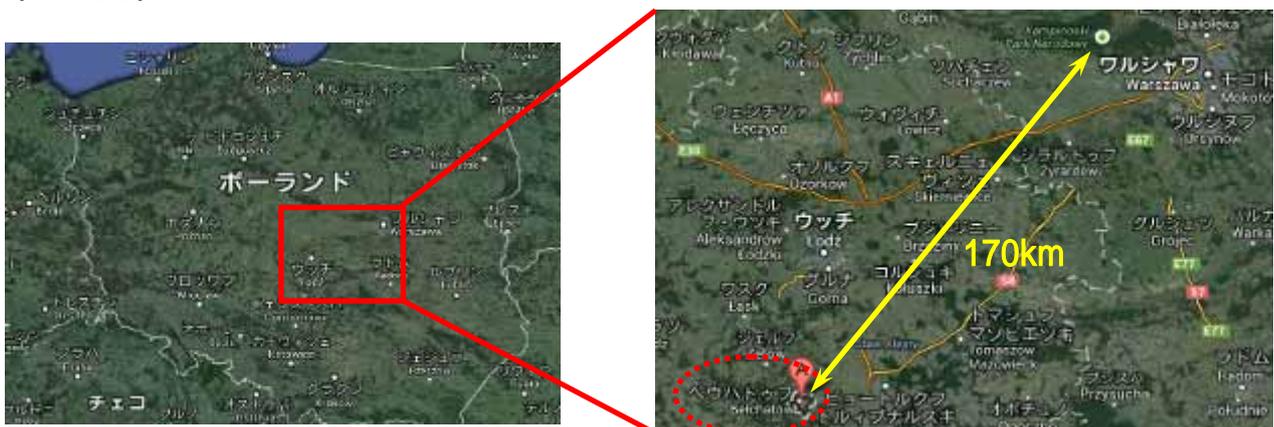
3 クリーンエネルギー大臣会合

- ・クリーンエネルギー技術の開発や普及における国際的な政策協調を目的としたエネルギー関係の大臣級会合
- ・日本、米国、中国、欧州委員会など23の政府関係者が参加

1. ポーランドワークショップ開催概要

主催	経済産業省 / ポーランド経済省	
参加者 (合計40名)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本20名(経済産業省、電気事業者連合会、東北電力、中国電力、電源開発他) ・欧州18名(ポーランド経済省、ポーランド国営電力会社[PGE]、欧州電気事業者連盟他) ・インドネシア2名(エネルギー鉱物資源省、インドネシア国営電力会社[PLN]) 	
日程	10月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・参加国による発電等に関するプレゼンテーション (於：ワルシャワ)
	10月15日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベウハトゥフ火力発電所における設備診断、運転・保守に関する意見交換 (於：ベウハトゥフ)
	10月16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体総括 (於：ワルシャワ)
ベウハトゥフ火力 発電所における 意見交換と 経験の共有	<p>ベウハトゥフ火力発電所において、参加国の発電技術者による運転・保守に関する意見交換を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PGE による適切な運用管理のもと、熱効率率の維持に努めていることを確認。加えて、経年化ユニットに対しては、経済性を勘案しながら、設備の部分更新(レトロフィット)による熱効率率向上とEUの厳しい環境基準への適合を図っていることを確認。 ・ 設備の運用保守による熱効率率維持の重要性と、レトロフィットによる熱効率率改善がCO₂排出量の削減に効果的であることを、参加国の技術者で共有。 ・ 日本からは超臨界ユニット等で経験している中圧タービン初段ノズルの侵食事例を紹介し、今後留意すべき点についての共有が図られた。 <p>〔ベウハトゥフ火力発電所 概要〕 約37万kW×12基(1～12号：1982年～1988年に建設、運用) 85.8万kW×1基(14号：2011年運用)</p>	

(位置図)



2. ワークショップ風景



ワークショップ全景



ベウハトゥフ発電所全景



中央制御室での運転状況等の確認
(ベウハトゥフ火力発電所)



効率改善等に関するディスカッション
(ベウハトゥフ火力発電所)



全体写真
(ベウハトゥフ火力発電所)



全体総括での電事連からのプレゼンテーション